

「問題行動」をその子が何かを伝えたい事があるのでは？と捉えてみることで見え方が変わってきますよねえ。以前トータムで他害がひどい子がいて、すぐ人を叩くんです。始めは原因が解らなくて困っていましたが、これは彼の発信なんだと捉え、その子が行動に出ると「な～に？」と顔を向けて「◎◎さんですよ。」と言うようにしたんです。すると叩く行為はどんどん減って行って、代わりに「◎◎さん！」と発語が増えた、と言う事がありました。「問題行動＝止めさせる」と直結するのではなくて、少し子ども達の立場になって考えてみると色んなモノ、原因が見えてくるかもしれませんねえ。．．．。そんな子どもの立場になって考えらる支援者、支援団体を目指しています。 久田

第33回 『わかるように伝えていますか』

香川大学 坂井 聡

☆メッセージを送り、受けとる

送り手がメッセージを送り、そのメッセージを受け手側が受け取ることによって、対人コミュニケーションは成立します。つまり、送られるメッセージがなければ、対人コミュニケーションは存在しないことになるのです。このように、送り手側によって符号化されて送られ、受け手側によって符号解読され理解されるメッセージは、対人コミュニケーションのやりとりの過程において最も重要なことであるといえるのです。

ここで、その過程を具体的に考えてみましょう。Aさんによって言語として符号化されたメッセージは、主に音声言語として発信されることになります。その他にも、身振りやジェスチャーなどによっても補足されて発信されます。送られてきたメッセージは、Bさんの聴覚的な感覚器官や視覚的な感覚器官によって知覚されることになります。そして、その情報は脳の言語野や視覚野に送られ、それらが統合され、情報処理されてメッセージの意味が解読されることになるのです。非言語的なメッセージの場合も同様です。Aさんから発せられた非言語的なメッセージは、Bさんの聴覚、視覚、触覚、臭覚、味覚などの器官を通して知覚され、そして大脳に送られ、統合され情報処理され、意味が取り出されていくというわけです。

1) 発達障がいのある子どもの場合

発達障がいのある子どもの場合、メッセージを送ろうとしても、その送り方が周囲の人に受け入れられないような方法である場合があります。適切な音声言語に符号化してメッセージを送ることができない場合があるということです。いわゆる問題行動と言われるものです。周囲にいる子どもを叩いてみたり、大きな声を出してみたりしてしまうことになります。これは、相手を困らせようとしているのではなく、そうすることによって、メッセージを送っているというように考えられるのです。メッセージの送り方が未熟だということです。送ったメッセージが周囲の人に受け入れられないような場合は、相手も解読できなくなってしまいます。そのため、通じ合うことができなくなってしまい、ディスコミュニケーション状態になってしまうのです。

また、感覚に過敏性などをもっている子どもの場合で、音に対して過敏性があるような場合は、音声によるメッセージを適切に受け取ることができなくなることもあります。また、送られてきた非言語的なメッセージから、伝えられたことを抽出することができず、適切に符号解釈できないこともあると考えられます。

2) どのように対応したらよいのか

メッセージを周囲の人に受け入れられるような方法で伝える練習をする必要があります。子どもたちが困っているのは、相手に伝わるように、適切に符号化したメッセージを送ることができないということです。つまり、どのようなメッセージを送れば相手に伝わるのかということを教えることができれば、その問題は解決するということなのです。そのためには、何を伝えなかったのかを推測する必要があります。つまり、子どもたちの行動の背景にあるメッセージを考えるということです。マンガの吹き出しを考えるというような感じですね。そして吹き出しをつけることができれば、「それを伝えるのだったら、このように伝えればよかったのではないかな」、「そのような言い方では伝わらないから、このように言いましょう」というように、吹き出しになったメッセージを相手に伝えることができるように具体的な方法を練習していくのです。

時には小グループでロールプレイするなどの方法も効果的です。また、行動を4コママンガにして、その3コマ目のマンガに吹き出しを入れるというような方法も効果的です。行動の結果を考えるようにするのではなく、いい結果を導き出すための3コマ目のセリフを考えるということです。ということなので、4コマ目のマンガは成功しているマンガにしてくださいね。

坂井聡先生の紹介

(プロフィール)

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞

(著書)

暮らしの中のコミュニケーション（やまびこの里）クラスルームコミュニケーション（こころリース出版会）自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア（エンパワメント研究所）など